

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 089

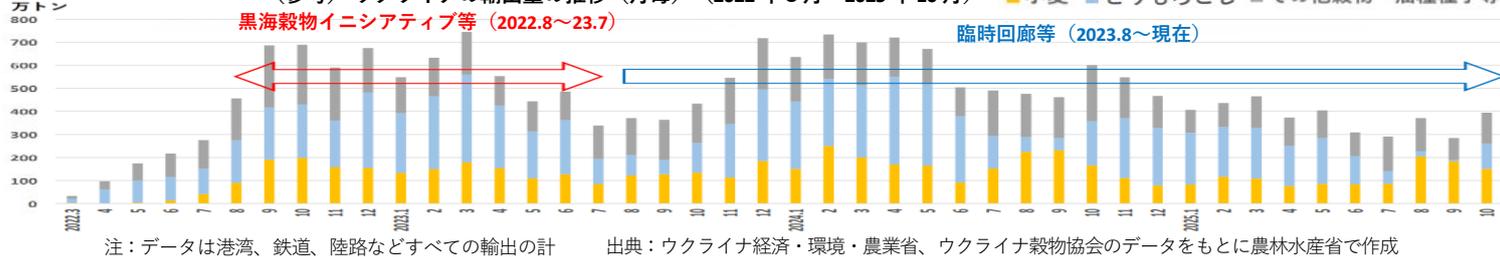
(2025/26年度 USDA米国農務省 12月9日発表)

今年度の世界の穀物需給状況は、今まで見てきた通り順調に推移しておりほぼ史上最高レベルの生産見通しとなっている。今回は2022年のロシア侵攻以来困難を極めているウクライナの小麦/とうもろこし生産/輸出の現状と課題についてコメントしたい。

① 下表はロシア侵攻（22年2月）以降のロシアを含めた4者合意の22年8月～「黒海穀物イニシアチブ」期間とロシア離脱以降23年8月～の「臨時回廊」利用の月別穀物等輸出状況を表している。これを見て明らかな様に、22年9月～翌年4月と23年10月～翌年5月までの収穫～輸出期間はその他穀物を含め毎月600~700万トンの輸出が確保され回廊等の機能は働いているが、24年25年の同期間についてはその効果は薄らいている。その結果、別添「需給表」にある通り現在のウクライナの小麦/とうもろこしの生産/輸出量は其々23/15、29/23百万トン、合計52/38百万トンと侵攻前に比べれば大幅に落ち込んでおり、国内生産基盤の疲弊状況が伺える。

② ロシア侵攻以前21/22年度のウクライナの小麦/とうもろこしの生産/輸出量は其々33/19、42/24百万トン、合計75/43百万トンと世界有数の穀物生産/輸出国であったが、現状の生産高は侵攻前の約70%、輸出数量は90%弱と縮小している。輸出数量の落込みが比較的小さいのは、主にとうもろこしの国内feed使用量が11⇒3百万トンと大幅に削減され主に中国向け輸出に転用されたことが大きい。其のため国内feed用には大麦等の雑穀が充当されている。ウクライナの穀物生産はロシア侵攻により ①農業機械/肥料/農薬等の生産資材不足 ②労働力不足 ③穀物サイロ/鉄道/港湾施設等のインフラ設備の損壊 ④地雷敷設/弾薬汚染による耕作不能地の存在等の問題があり戦後復興にはかなりの労力と資金の手当てが不可欠である。ただ、停戦交渉も始まり関係者が戦後にどう備えるかが大きな課題である。

(参考) ウクライナの輸出量の推移 (月毎) (2022年3月～2025年10月)



1. 世界穀物需要の概況 (大豆を除く)

① 生産量：	2,954百万トン (前年比3.5%)	増 ↑	、前月比0.3%	増 ↑
② 消費量：	2,953百万トン (前年比2.6%)	増 ↑	、前月比0.2%	増 ↑
③ 貿易量：	531百万トン (前年比6.7%)	増 ↑	、前月比0.7%	増 ↑

2. 小麦

① 生産量：	838百万トン (前年比4.6%)	増 ↑	、前月比1.1%	増 ↑
② 消費量：	823百万トン (前年比1.5%)	増 ↑	、前月比0.5%	増 ↑
③ 輸出量：	219百万トン (前年比4.1%)	増 ↑	、前月比0.7%	増 ↑
④ 在庫量：	275百万トン (前年比5.7%)	増 ↑	、前月比1.3%	増 ↑
⑤ 価格：	\$5.38/Bu (前年\$5.43/Bu / 先月\$5.28/Bu) と先月比\$0.10 上昇。			

⑥ 概況：世界の生産量は、カナダ/アルゼンチン/EU等の生産が前月から上方修正され前年度からも約4千万トン近く増産の見通しである。消費量も前年度から約1千万トン強増加の見通し。輸出も順調である。在庫量は生産が消費を上回った為前年比約15百万トン増加。市場価格は米中首脳会議を受けて5.5台半ばまで値を上げたが、その後は効果は限定的との見方で同水準で推移。

3. とうもろこし

① 生産量：	1,283百万トン (前年比4.3%)	増 ↑	、前月比0.3%	減 ↓
② 消費量：	1,297百万トン (前年比3.6%)	増 ↑	、前月比0.0%	→
③ 輸出量：	205百万トン (前年比9.6%)	増 ↑	、前月比0.8%	増 ↑
④ 在庫量：	279百万トン (前年比4.8%)	減 ↓	、前月比0.8%	減 ↓
⑤ 価格：	\$4.37/Bu (前年\$4.31/Bu / 先月\$4.27/Bu) と先月比\$0.10 上昇。			

⑥ 概況：世界の生産量は、ウクライナ/カナダ等で下方修正され前月より約4百万トン程減少するが、前年比では米国の大増産の影響もあり約5千万トン程増産の見通しである。消費量は米国/中国で増加し13億トンに近づいている。輸出も堅調で2億トンの大台を維持。在庫量は生産が消費を下回り前年を下回る。市場価格は米国の堅調な需要と米中首脳会談の期待を受けて4.5台半ばで推移。

4. 大豆

① 生産量：	423百万トン (前年比1.1%)	減 ↓	、前月比0.2%	増 ↑
② 消費量：	422百万トン (前年比2.1%)	増 ↑	、前月比0.1%	増 ↑
③ 輸出量：	188百万トン (前年比1.6%)	増 ↑	、前月比0.1%	減 ↓
④ 在庫量：	122百万トン (前年比0.7%)	減 ↓	、前月比0.3%	増 ↑
⑤ 価格：	\$11.05/Bu (前年\$9.94/Bu / 先月\$11.02/Bu) と先月比\$0.03 上昇。			

⑥ 概況：大豆の世界生産量は、ロシア/インド等で上方修正され前月比で微増、前年比では5百万トン程度減少する見通し。消費量は米国/中国等で増加し前年比8百万トン程増加。輸出量は2億トンに迫っている。在庫量は前年を若干下回る見通し。市場価格は10月末の米中首脳会議で中国が米国産大豆今期1,200万トンその後年間2,500万トン輸入との期待が膨らみ11.5台に上昇し推移している。

世界の穀物・大豆等の需給

2025年12月9日
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給							
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量	
全穀物	2023/24	2,823	3,616	515	2,819	798	
	2024/25	2,853	3,650	498	2,878	772	
	2025/26	11月	2,946	3,716	527	2,947	769
	2025/26	12月	2,954	3,726	531	2,953	773
小麦	2023/24	792	1,067	222	797	270	
	2024/25	801	1,071	210	811	260	
	2025/26	11月	829	1,090	217	819	271
	2025/26	12月	838	1,098	219	823	275
粗粒穀物 (とうもろ こし等) 注1	2023/24	1,507	1,845	236	1,497	347	
	2024/25	1,511	1,858	227	1,536	322	
	2025/26	11月	1,576	1,897	247	1,586	311
	2025/26	12月	1,576	1,898	249	1,588	310
米	2023/24	524	705	57	525	180	
	2024/25	541	721	61	531	190	
	2025/26	11月	541	729	63	542	187
	2025/26	12月	540	731	63	542	189
大豆	2023/24	396	498	178	383	115	
	2024/25	427	542	185	419	123	
	2025/26	11月	422	545	188	422	122
	2025/26	12月	423	546	188	422	122

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	11月	291.66	1,286.23	191.12	1,296.54	203.47	281.34
	12月	293.37	1,282.96	190.37	1,297.18	205.10	279.15
アメリカ	11月	38.91	425.53	0.64	332.25	78.11	54.71
	12月	38.91	425.53	0.64	332.25	81.28	51.53
アルゼンチン	11月	4.58	53.00	0.01	16.40	37.00	4.19
	12月	6.28	53.00	0.01	16.40	37.00	5.89
ブラジル	11月	10.43	131.00	1.60	96.50	43.00	3.53
	12月	10.43	131.00	1.60	96.50	43.00	3.53
EU	11月	6.19	55.75	21.00	75.30	1.80	5.84
	12月	6.14	56.75	20.00	75.30	1.80	5.79
日本	11月	1.37	0.02	15.50	15.50	0.00	1.39
	12月	1.37	0.02	15.50	15.50	0.00	1.39
中国	11月	191.93	295.00	8.00	321.00	0.02	173.91
	12月	191.93	295.00	8.00	321.00	0.02	173.91
ロシア	11月	0.91	14.10	0.05	11.10	3.00	0.96
	12月	0.91	14.50	0.05	11.40	3.00	1.06
ウクライナ	11月	1.04	32.00	0.01	7.00	24.50	1.55
	12月	0.84	29.00	0.01	6.00	23.00	0.85

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	11月	123.34	421.75	186.41	421.54	187.97	121.99
	12月	123.24	422.54	186.14	421.85	187.70	122.37
アメリカ	11月	8.61	115.75	0.54	72.53	44.50	7.89
	12月	8.61	115.75	0.54	72.53	44.50	7.89
アルゼンチン	11月	23.10	48.50	7.70	48.20	8.25	22.85
	12月	23.09	48.50	7.70	48.20	8.25	22.84
ブラジル	11月	36.81	175.00	0.35	63.30	112.50	36.36
	12月	36.81	175.00	0.50	63.30	112.50	36.51
中国	11月	44.49	21.00	112.00	133.00	0.10	44.39
	12月	44.49	21.00	112.00	133.00	0.10	44.39
EU	11月	1.54	2.79	14.30	16.82	0.30	1.51
	12月	1.60	2.79	14.30	16.82	0.30	1.57

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	11月	261.44	828.89	212.92	818.90	217.21	271.43
	12月	260.03	837.81	214.39	822.97	218.71	274.87
アメリカ	11月	23.15	54.01	3.27	31.41	24.49	24.52
	12月	23.15	54.01	3.27	31.41	24.49	24.52
アルゼンチン	11月	3.41	22.00	0.01	7.40	14.00	4.02
	12月	2.91	24.00	0.01	7.90	14.50	4.52
オーストラリア	11月	4.46	36.00	0.23	9.10	26.00	5.59
	12月	3.96	37.00	0.23	9.10	27.00	5.09
カナダ	11月	4.11	37.00	0.60	9.35	27.00	5.36
	12月	4.11	39.96	0.60	10.35	28.00	6.32
EU	11月	11.71	142.30	5.50	113.50	33.00	13.01
	12月	11.71	144.00	5.50	114.50	33.00	13.71
中国	11月	127.78	140.00	6.00	148.00	1.00	124.78
	12月	127.78	140.00	6.00	148.00	1.00	124.78
インド	11月	12.00	117.51	0.25	112.51	0.25	17.00
	12月	11.80	117.95	0.25	112.51	0.25	17.24
ロシア	11月	10.59	86.50	0.30	41.20	44.00	12.19
	12月	10.59	87.50	0.30	41.20	44.00	13.19
ウクライナ	11月	0.93	23.00	0.10	7.10	15.00	1.93
	12月	0.93	23.00	0.10	7.60	14.50	1.93

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。

脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

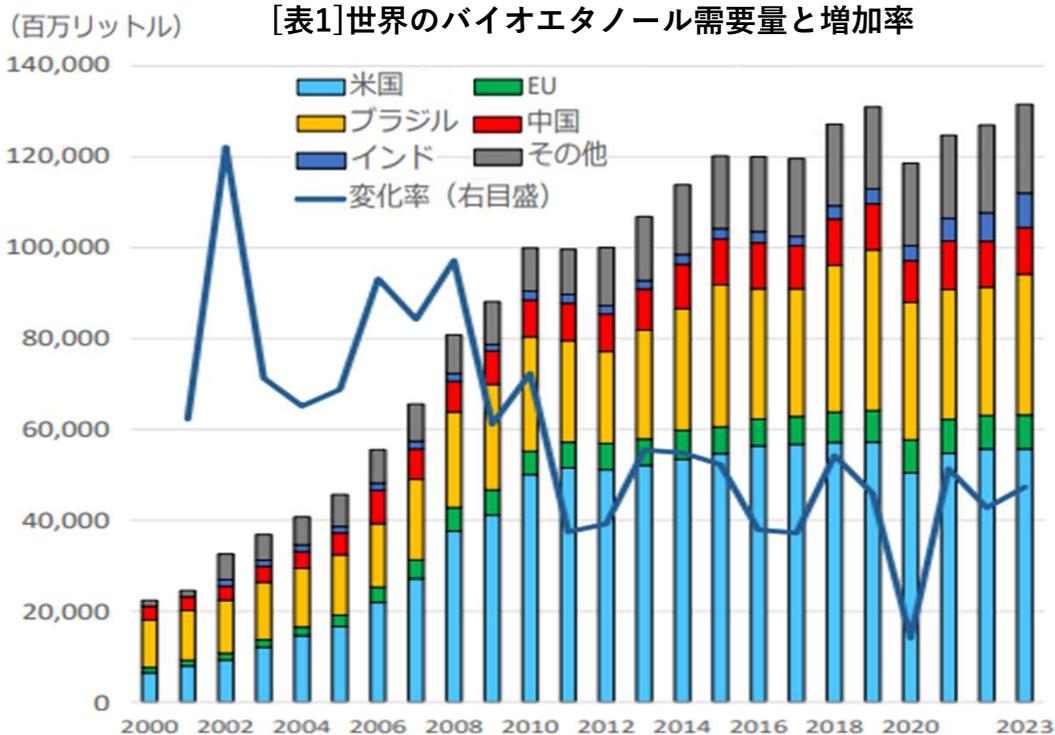
世界の穀物輸出を牽引するとうもろこし生産拡大と食肉需要の動向(12)

①今まで見てきたように、1960年以降今日まで世界の穀物生産の伸びは驚異的である。其れを節目の1960⇒2000⇒2024年の約60年の拡大の概略を見ると8億⇒20億⇒30億トと24年は1960年比約3.8倍、2000年比1.5倍と人類史上類を見ない増産ぶりである。この背景は、主に①人口増(35⇒85億人、約2.5倍)に伴う食糧としての増産、②食肉需要増による配合飼料原料であるとうもろこしと大豆の生産拡大の2点が挙げられる。特に②の配合飼料消費量は24年現在約14億トと全穀物生産の約45%を占めるまでに拡大している。これに加え今日の特徴は、穀物その他がバイオ燃料原料としての利用が増加していることである。[表1]は2000年～23年までのバイオエタノールの需要量と増加率であるが、約200億L⇒1,300億Lと約6.5倍に急増。その生産は主に米国とブラジルの2カ国で約75%集中。あとは中国/EUと続いている。その原料は60%とうもろこし(米国)/25%砂糖キビ(ブラジル)その他小麦/糖蜜等。特に米国ではとうもろこし生産量の約1/3=1.3億トがエタノール生産に投入され、とうもろこしの市場価格維持にも欠かせない存在になっている。

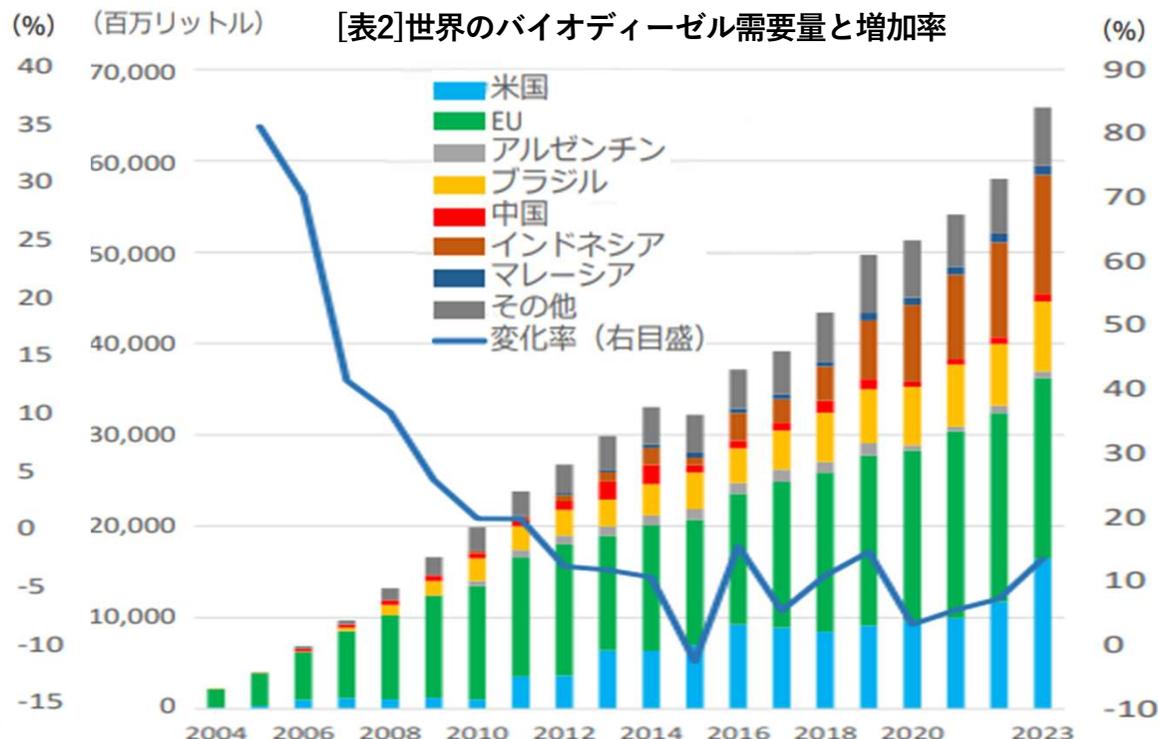
②[表2]はバイオディーゼルの04年⇒23年までの同様な数字であるが、ほぼゼロ～約650億Lまで拡大、バイオエタノールの約半分の数量に近付いている。この生産国はEU30%、米国23%、インドネシア20%、ブラジル10%とこの4カ国で約85%と大半を占めている。この原料は主に油脂類でパーム油35%、大豆油22%、菜種油14%、廃用油14%、動物脂7%…。この中でインドネシア/タイはパーム油、米国/ブラジルは大豆油と使用原料は大きく分かれている。

③現在この両者の需要量は併せて約2,000億L、車両用に使用されるガソリン/軽油消費量約35億KLの約6%程度と推測されるが、今後バイオ燃料の需給動向はどうなるのか…？OECD-FAOによれば今後2030年にむけて開発途上国における混合目標の高まり等を受けて緩やかに増加するとみられているが、①中国/米国/EU等におけるEV普及、②バイオ燃料コストの高騰、③環境問題からのパーム椰子の生産抑制、④とうもろこし/大豆等の食料/飼料との競合と穀物需給逼迫等の要因、⑤RD(再生可能ディーゼル)/SAFとの競合等もあり今後の動向が注目される。(完)

[表1]世界のバイオエタノール需要量と増加率



[表2]世界のバイオディーゼル需要量と増加率



資料：OECD-FAO Agricultural Outlook 2024-2033より作成